

令和3年度 三木市立緑が丘小学校 卒業式

式 辞

厳しい冬を乗り越え、花壇には色とりどりの花々が咲き始め、春の息吹を感じるこの佳き日に、令和3年度第49回卒業証書授与式を挙行できますことを心より嬉しく思います。

本日、ここに54名が小学校の全課程を修了し、卒業の日を迎えました。卒業生の皆さん、卒業おめでとう。保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

私たちはこの二年間、コロナ禍という想定外の事態に直面し、様々な変更、時には中止を決断しながら、この状況下においてできる限りの対応を重ねてきました。その中でも私の心に最も深く残っていますことは、運動会の時のことです。昨年4月23日に出された緊急事態宣言は二度の延長となりました。気温、他の学校行事との関係、学習進度など、様々な理由から運動会の再延期を避け、校内での実施を決断しました。その時数名の保護者の方から、再延期のご相談を受けたり、小学校最後の運動会での子どもを姿を直に見ることができない悔しくもどかしい気持ちをお聞きしたりしました。恐らく、直接うかがっていないだけで、6年生の保護者の皆様が同じ思いでいらっしやるのであろう、そして、子どもたちもまた、お母さんやお父さんにがんばってきた姿を見て欲しいと思っっているに違いないと、本当に申し訳ない、やるせない気持ちでいっぱいでした。それは今も変わりません。

一方で、その時、保護者の皆様のお子様への深い愛情に思いを馳せました。

「ああ、この子達は、なんと深く愛されているのだろう。」

「こんなにも大事に思われているのだ。」

普段から「大切なお子様をお預かりしている」と言うことは、

反芻していることです。しかしながら、この時、改めてそのことを強く心に刻み、今日こんにちに至っております。

さて、こんなにも大事にされている卒業生のみなさん、今日は、皆さんの卒業に際して「人間万事塞翁が馬じんかんばんじさいおうがうま」という諺を紹介します。「人間」とは、世の中全体を意味します。「万事」は何事も、ですね。そして、「塞翁」というのは、お城の城壁近くに住んでいるおじいさん、という意味です。「が、馬」とありますが、からお城の近くに住んでいるおじいさんの馬、という意味です。この諺の元の話は、中国の古い書物に書かれているそうです。

昔、中国の北の方。お城の近くに老人が住んでいました。ある時、その老人の馬が北の方角に逃げていってしまいました。この地方の馬は良い馬が多く、高く売れるので近所の人々は気の毒がって老人をなぐさめにやってきました。

ところが老人は残念がっている様子もなく言いました。

「このことが幸福にならないとも限らないよ。」

そして、しばらく経ったある日、逃げ出した馬が良い馬をたくさんつれて帰ってきました。

そこで、近所の人たちがお祝いを言いに行くと、老人は首を振って言いました。

「このことが災いにならないとも限らないよ。」

しばらくすると、老人の息子がその馬から落ちて足の骨を折ってしまいました。近所の人たちがかわいそうに思ってなぐさめに行くと、老人は平然と言いました。

「このことが幸福にならないとも限らないよ。」

一年が経ったころ、北の異民族たちが襲撃してきました。近くの若者

はすべて戦いに行き、その多くはその戦争で死んでしまったそうです。しかし、老人の息子は足を負傷していたので、戦いに行かずに済み、無事でした。

私はこの言葉を何度か実感したことがあります。その一つをお話します。私は、明石市で長く教員をしていました。明石では研究会を立ち上げ、共に勉強してきた仲間もたくさんいました。ですから、教頭として三木市に異動が決まったときには少しさみしさと不安を感じました。それから三木市で七年が経った春のことです。明石に勤務する前、大学を出た頃に勤めていたこの緑が丘小学校への異動が決まりました。教員生活を始めた時の学校にもどって行くことができたのです。当時、担任をしていた子どもがお母さんとなり、校長室を訪れてくれました。そのことをきっかけに思い出したことがありました。小学校の時から憧れていた先生になることができて、毎日が本当に楽しくて、子どもに会えない日曜日が嫌で早く月曜になって学校に行きたいと思うほど、毎日が楽しかったことを。この緑が丘小学校に着任させていただいたことで、教員生活のスタートの時の新鮮な気持ちを様々な風景と共に思い出すことができ、それは私にとって、とても幸せなことでした。そして、先日、6年1組さんと「生きる」の詩を、2組さんとは、「きつねの窓」という物語を学習することができました。まさしく万事塞翁が馬です。三木市に帰ってくるのができて本当に良かったと、今、思っています。そんなことを思いながら、皆さんの卒業アルバムに贈ったメッセージの一部を読みたいと思います。

信じてください

自分には「未来」があること

自分が描き、進む「未来」あること

この先、出会うだろうたくさんの楽しいこと

この先、出会うだろういろんな辛いこと

目に見えない、予想のつきにくいこともあるでしょう

でも、大丈夫 乗り越えられる

うれしい時は、有頂天になりすぎず、

悲しい時は、必要以上に落ち込まず、

いつも、大きく深呼吸をして

次の一步を踏み出せばいい

最後になりましたが、PTA会長の南様、紙面決議や輝き委員会で
の活動、トイレ洋式化に関しては教育委員会へも足をお運びいた
だきました。お陰様で、次年度女子トイレの全面洋式化が決まり
ました。また、来年度の創立五〇周年記念行事実行委員会の立ち
上げ、推進など、数え切れない数のご支援とご協力を賜りまし
た。この場をお借りしまして、心よりお礼申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ出発です。皆さんが、これまでの学
びや経験を価値のあるものへと繋いで、繋いで、心豊かに充実し
た中学校生活を送ることを願ひ、私からはなむけの言葉といたしま
す。

令和四年三月二十三日

三木市立緑が丘小学校 校長 大江 実代子